

○田中 良尚<sup>1</sup>

<sup>1</sup>京大院薬

男女共同参画が世の中で叫ばれ始めて久しいが、この「男女共同参画」という言葉から浮かぶイメージは、おそらく世代によって大きく異なる。男女の社会参加に大きな偏りがあったかつての時代を経験してきた世代と、男女共同参画という概念を当然のものと受け止めている若者の世代では、その理解や価値観について違いがあるように思われる。一方で、その間に存在する隔たりをお互いに認識して理解する試みは、今後の日本薬学会、ひいては社会形成にとって重要な視点である。私は、今年の春に6年制薬学部を卒業し、現在博士課程に在籍している大学院生である。加えて、日本の薬学会にとって大きな転換点であった、薬学部6年制導入後に入学しており、それに伴う薬学教育や研究現場の変遷過程を間近に経験してきた世代である。本講演においては、若手世代から見た、薬学分野や大学の研究環境における男女共同参加の現状について、幅広くお話しさせていただくことにする。具体的には、家族の構築、仕事と家庭の両立といった人生の将来を展望するにあたり、現在の大学における研究環境が、若手世代の目にどのように映っているのかをご紹介したい。あらゆる立場や世代の人が相互に気軽にディスカッションを行いながら、今後のより良い男女共同参加の在り方を考える機会にしたいと考えている。